

サルデスの教会 ヨハネの黙示録 3:1-6

1. また、サルデスにある教会の御使いに書き送れ。『神の七つの御霊、および七つの星を持つ方がこう言われる。(3:1a)
 - a. サルデスの教会に対するイエスの自己紹介には2つの要素がある。まずは「神の七つの御霊を持つ方」。七は完全数なので多くの者がこれは聖霊のことだと考える。あるいはこれはイザヤ 11:2 で言われている七つの霊だと信じる者もいる(①主の霊、②知恵の霊、③悟りの霊、④はかりごとの霊、⑤能力の霊、⑥主を知る知識の霊、⑦主を恐れる霊)。
 - b. 「七つの星を持つ方」。これはイエスが守護天使と密接な関係にあることと、神の権威を表わしている。イエスがすべてを支配されるお方である。

2. 「わたしは、あなたの行ないを知っている。あなたは、生きてるとされているが、実は死んでいる。目をさましなさい。そして死にかけているほかの人たちを力づけなさい。わたしは、あなたの行ないが、わたしの神の御前に全うされたとは見ていない。だから、あなたがどのように受け、また聞いたのかを思い出しなさい。それを堅く守り、また悔い改めなさい。もし、目をさまさなければ、わたしは盗人のように来る。あなたには、わたしがいつあなたのところに来るか、決してわからない。(3:1b-3)
 - a. 他の教会に宛てられた手紙のほとんどは称賛あるいは奨励で始まるが、サルデス教会の場合は必ずしもそのような言葉がない。おそらくこの教会は多くの称賛を受けていてうぬぼれが強かったであろう。この教会は周囲からの評判はとても良かった。
 - b. 評判が良いことは決して悪いことではない。箴言 22:1 には「名声は多くの富よりも望ましい」とある。ただしイエスは皆からほめられる人に対して警告を与えている(ルカ 6:26)。彼らの先祖は偽預言者たちをそのように扱ったからである。
 - c. 良い評判は望ましいことではあるが、主との良い関係を犠牲にしてまで得るべきものではない。皆があなたのことをどんなにほめても、神の目から見て欠けている所があれば意味がない。またその逆もしかり。神の御心のうちにあり神から大切にされていれば人々から「十字架につけろ!」とののしられても関係ない。
 - d. サルデスは神の目から見て死んでいた。そして目を覚ますよう強く呼びかけられた。興味深いことにこの街は高い丘の上であり、どこからも侵入不可能だと思われた。しかし彼らは自信過剰になっており、気を緩め、少なくとも二度の侵入を許してしまった。
 - e. 私たちは時として一番強いと思っている部分をガードしなくてはならない。主により頼まなければならない弱い部分よりも、強いと思っている部分がプライドに陥ってしまうのである。プライドという罪の中にあっては主のための御用はできない。

3. しかし、サルデスには、その衣を汚さなかった者が幾人かいる。彼らは白い衣を着て、わたしとともに歩む。彼らはそれにふさわしい者だからである。勝利を得る者は、このように白い衣を着せられる。そして、わたしは、彼の名をいのちの書から消すようなことは決してしない。わたしは彼の名をわたしの父の御前と御使いたちの前で言い表わす。耳のある者は御霊が諸教会に言われることを聞きなさい。』(3:4-6)
 - a. このイエスの忠告に対してサルデス教会がどのように反応するかによって結果は永遠に変わってくる。正しく歩む者は地上だけでなく天でもすばらしい名声が残り、イエスご自身が名前を呼んでくださり、白い衣を着、勝利の道を歩かせてくださる。しかしそうでない者はいのちの書から名前を消されてしまう。
 - b. そして御霊が言われることを聞く耳を持つ者は正しい選択をしていかななくてはならない。